

○ 日本をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域について、様々な考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる学習はどう進めればよいのか。

日本の諸地域について、日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、自然環境を中核とした考察、歴史的背景を中核とした考察、産業を中核とした考察、環境問題や環境保全を中核とした考察、人口や都市・村落を中核とした考察、生活・文化を中核とした考察、他地域との結び付きを中核とした考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。

(内容の取扱い)

- ・ 地域区分については、指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること。
- ・ 指導に当たっては、地域の特色ある事象や事柄を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を追究するようにすること。
- ・ 考察の仕方については、学習する地域ごとに一つ選択すること。また、学習全体を通してすべて取り扱うこと。

【 具体的指導例 】

○ 北海道地方（歴史的背景を中核とした考察）

例えば、「北海道地方では、どのようにして特色ある農地の開発や街づくりが進められていったのか」



という課題を設定して、開拓使や屯田兵村の設置と石狩平野の開発、十勝平野や根釧台地の開発など、北海道の開発の歴史に関する特色ある事柄を中核に据えて多面的・多角的に調べ、考察させることが考えられる。

これらの事柄を自然環境と関連付けてとらえることで、北海道地方の冷涼な気候や土壌などの特色、自然環境へ働きかけ開発に努力した人々の営み、稲作拡大の様子や畑作、酪農地域の分布の特色などが理解できる。

都市・村落の立地や人口移動と関連付けることで、開拓使や屯田兵村の設置を出発点として、その後も計画的な都市開発や農地の開拓が行われた歴史的背景が、北海道の特徴的な景観の形成にかかわっていることなどをとらえることができる。